

東京日々新聞



十六拾號

十九号

三十振袖甲島田夫さゆも
色々の奇話、三十年も若
たし彼の浦島二因め

神奈川縣下小倉村
素福屋源兵衛が養
母さきい今年
八十七ふとど
元来浮氣
の性じて
今よ

二上り三下り湯上り粧し白粉の
意を盡してらあきとそり孫助と言
る職人といつる露と霖ことつみ
アレ寐ぬとつ風説が主人の耳
よ入りつ世間の口と留んと
痛助へ服と遣りしん夫より
助の噂のそ大聲
揚て言ふ物つら
狐憑の障碍
と家内一統
この御祈禱
あーこの癡ひ
ささどとほし
さきいあつ身
體次第よ衰へて
や骸骨の如く
さつと

九
町形具足屋

一萬芳幾
雙